



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第41回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 次打者サークルでの姿勢

次打者が待つ姿勢はひざをついていなくても良いのでしょうか。

サークル(次打者席)内で片ひざをついている姿勢が一般的に多く見られました。ところが、鋭いファウル打球を逃げ切れなかった負傷事故が報告され、日本高野連から未然防止の通達が出されたことによるものです。数年来、「年間の周知徹底事項」や「大会前の注意事項」などを通じて「投球時には低い姿勢でプレイに注目する」と呼びかけています。

低い姿勢とは、ひざをついたり腰を落としてしゃがむことですが、いずれの場合も投球に注目していなければなりません。打球はもちろん、バットが飛んで来たり、捕手の守備を妨害する可能性もあります。投球間も同じ姿勢を強要するものではなく、わずかでもひざを伸ばしたり、すぐによける反応に備えることも大切です。



ルール編 インフィールドフライ・イフ・フェア

一死満塁、打球が一塁付近に上がり、球審が”インフィールドフライ・イフ・フェア”とコールしました。どんな意味でしょうか?

ベースライン付近に上がった飛球で、一塁手が通常守備で捕球体制に入るのを見て規則通り”インフィールド・イフ・フェア”をコールしました。同時に三人の塁審も同調のコールをしています。”インフィールドフライ・イフ・フェア”は、「もしフェア打球ならば、インフィールドフライの規則を適用する」ですから、打球がファウルに落ち着けばインフィールドフライにはならないことを意味します。

規則2・04はインフィールドフライを定めた条項、その【付記】です。

『インフィールドフライと宣告された打球が、最初に(何物にも触れないで)内野に落ちても、ファウルボールとなれば、インフィールドフライとはならない。またこの打球が、最初に(何物にも触れないで)ベースラインの外へ落ちて、結局フェアボールとなれば、インフィールドフライとなる。』

インフィールドフライの規則は、打者にアウトの宣告がされることで走者の次の行動を容易にするために設けられています。あくまでも「フライ」ですから、ライナーやバントを企てて飛球になったものは除かれるのです。

インフィールドフライは日常的に起こるプレイだと思われがちです。しかし、単純に”バッターアウト”と結ぶのではなく、競技の規則としての意義を理解したいものです。

なお、38回掲載の本年度規則改正中、「インフィールドフライと宣告された打球に対する守備妨害」も再度の確認をしてください。